

「歴史館まつり」が開催されました。

8月19日(日曜日),茨城県立歴史館(水戸市)において,「歴史館まつり」が盛大に行われました。「小中学生いにしえのピアノ演奏体験」「ウォークラリー」「ミニ新幹線運行」などのイベントが行われ,2,400人を超える多くの来館者でにぎわいました。特に「よろい・かぶと体験コーナー」は開始早々から行列ができるほどの人気で大勢の子どもたちが参加し,次々によろいを身に着けて,記念写真を撮っていました。また「勾玉づくり体験」も大盛況で,歴史館ボランティアに作り方を教わりながら,思い思いの勾玉をつくっていました。

また,そのほか水戸生涯学習センターの「子ども体験広場」,ハッスル黄門ぬりえ,新荘小学校管楽合奏部やディキシランブラーズのコンサート,水戸農業高等学校の生産物販売や水戸第二高等学校茶道部によるお茶会などもあり,いっそう祭りの雰囲気を盛り上げてくれました。



テーマ展 「千妙寺 - 天台の歴史と美術 - 」「昭和の暮らし - 昭和30～40年代の生活道具を中心に - 」を開催しました。

茨城県立歴史館(水戸市)では,8月25日(土)より9月24日(月)まで,テーマ展 「千妙寺 - 天台の歴史と美術 - 」「昭和の暮らし - 昭和30～40年代の生活道具を中心に - 」を開催しました。

千妙寺(筑西市黒子)は,皇室や比叡山延暦寺との関係も深く,古河公方なども信仰を寄せた名刹で,今回の展示では伝来する法具・仏画・古文書などを紹介しました。

また,「昭和の暮らし」では,昭和30年代から40年代の生活の様子を,スバル360などのなつかしい実物資料と写真で紹介しました。また,昔の道具を使う体験コーナーなどもあり,子どもたちにも大人気でした。



史料紹介展「行政資料にみる茨城の鉄道」を開催しました

10月30日(火)から11月25日(日)まで、史料紹介展「行政資料にみる茨城の鉄道」を開催しました。

日本最初の鉄道、新橋・横浜間の開業から13年後の明治18年に現在の東北本線の大宮・宇都宮間が開業し、古河に停車場が設けられました。これが茨城の鉄道の始まりです。その後、水戸線や常磐線などが開業し、茨城県も本格的な鉄道時代へと入っていきます。

今回は、当館の収蔵する行政文書や行政刊行物等の行政資料を中心に、明治から現代に至る茨城の鉄道について紹介いたしました。

第1部『国有化された鉄道』では、水戸線、常磐線、水郡線の成り立ちを明治、大正期の資料を中心に紹介し、第2部『民営鉄道の盛衰』では、民営鉄道各社の敷設に関わる文書や図面のほか、沿線案内図や乗車券等も展示しました。

また第3部『幻の鉄道』では、明治30年前後に敷設が計画されながら、開業することなく幻に終わった鉄道を紹介、第4部『新しい鉄道』では、平成17年8月に開業したつくばエクスプレスについて、行政刊行物により計画の変遷をたどるとともに、鹿島臨海鉄道に関する資料も紹介いたしました。



いばらきツアーオフィス主催の「鬼怒川流域の歴史と文学を訪ねる旅」に全面協力， 県西の歴史をめぐるバスツアーは大好評でした。

12月2日(日)、いばらきツアーオフィス主催のバスツアー「鬼怒川流域の歴史と文学を訪ねる旅」に全面協力し、全行程に同行、車内では見学地に関連したレクチャーなどを実施しました。

晴天にも恵まれた当日は、38名の参加者とともに筑波山をぐるりと回るコース【主な見学地は、千妙寺(筑西市)、下妻ふるさと博物館「横瀬夜雨記念室」(下妻市)、長塚節生家(常総市)、坂野家住宅(常総市)、法蔵寺(常総市)】を楽しみながら、鬼怒川流域の歴史と文化の素晴らしさを再発見できました。



千妙寺にて



長塚節生家にて